

## 第7回上信電鉄沿線地域交通リ・デザイン推進協議会 議事概要

日時：2025年6月19日（木）14：00～16：00

場所：高崎市総合保健センター 第1会議室

群馬県高崎市高松町5-28

※Teams 併用のハイブリッド開催

### 1 開 会

### 2 会長あいさつ

### 3 委員の紹介

### 4 議 事

- (1) 令和6年度協議会における取組状況の振り返りについて
- (2) 令和6年度協議会会計監査報告
- (3) 令和7年度協議会事業計画について
- (4) 令和7年度協議会予算について
- (5) 今後のスケジュールについて
- (6) その他

### 5 その他

### 6 閉 会

## 【配布資料】

- 資料0 議事次第
- 資料0-1 第6回上信電鉄沿線地域交通リ・デザイン推進協議会 出席者名簿
- 資料0-2 第6回上信電鉄沿線地域交通リ・デザイン推進協議会 配席表
- 資料1-1 令和6年度協議会における取組状況の振り返り
- 資料1-2 上信電鉄の今後のあり方に関する基本方針
- 資料2-1 令和6年度協議会事業実績
- 資料2-2 令和6年度協議会収支決算
- 資料2-3 令和6年度協議会会計監査結果報告書
- 資料3-1 令和7年度協議会に係る事業計画・収支予算（第6回協議会での承認事項）
- 資料3-2 令和7年度協議会事業計画
- 資料3-3 地域懇談会の企画
- 資料3-4 令和7年度協議会収支予算
- 資料4 今後のスケジュールについて
- 資料5 潜在的利用者把握 実証事業実施計画

1. 開会
2. 会長あいさつ
3. 委員の紹介
4. 議事

- 4.1 令和6年度協議会における取組状況の振り返りについて

<事務局より資料 1-1, 1-2 に基づき説明>

《意見等》

特に意見なし。

- 4.2 令和6年度協議会会計監査報告

<事務局より資料 2-1, 2-2, 2-3 に基づき説明>

《意見等》

特に意見なし。

- 4.3 令和7年度協議会事業計画について

<事務局より資料 3-1, 3-2, 3-3 に基づき説明>

《意見等》

【佐羽委員（関東運輸局地域公共交通マイスター）】

- ・ 住民懇談会で、住民から「運賃を下げしてほしい」など偏った意見しかでないことがないようにするためには、参加者の募集方法が重要となる。
- ・ 鉄道以外も含めて意見を出してもらえるような参加者に来てもらう必要がある。

⇒【事務局】

- ・ 参加者の募集方法は、公募と示しているが、上信電鉄の今後について確実な意見聴取ができるように、市町村から利用者や区長などに声掛けや推薦をしていただく想定である。

⇒【佐羽委員（関東運輸局地域公共交通マイスター）】

- ・ 参加者には趣旨などを丁寧に説明しないと、単純に要望しか出てこないことが懸念される。地域において、鉄道の存続がどのような意味を持つか、といった視点で意見交換が展開されることが望ましい。

⇒【関口副会長（群馬県知事戦略部交通イノベーション推進課長）】

- ・ 住民懇談会のプログラム案では、冒頭で趣旨等について説明を行うこととなっている。
- ・ 指摘を踏まえ、協議会におけるこれまでの議論も参加者に理解いただいた上で、建設的・前向きな意見を収集できるよう、丁寧な情報提供に留意したい。

【関口副会長（群馬県知事戦略部交通イノベーション推進課長）】

- ・ 市町村の考えも伺いたい。

【平田委員（富岡市企画課長）】

- ・ 確認だが、住民懇談会は協議会が主体であり、地域公共交通計画の策定につなげていくものか。

⇒【関口副会長（群馬県知事戦略部交通イノベーション推進課長）】

- ・ 地域公共交通計画の策定を目的とするものであり、協議会が主催する。

【平田委員（富岡市企画課長）】

- ・ 早急に準備を進めなければいけないが、公募と声掛けの内訳は想定しているか。

⇒【事務局】

- ・ 基本的には全て公募としながらも、地域によっては公募のみで30人募集いただくことが難しいことも想定されるため、公募と並行して市町村からの声掛けをお願いしたい。

⇒【平田委員（富岡市企画課長）】

- ・ 事務局で公募を進め、並行して市町村から声掛けをするということか。

⇒【事務局】

- ・ その通り。なお、市町村から推薦する場合には、公募とは別に事務局側で参加を受け付けることも可能である。

【真藤委員（高崎市地域交通課長）】

- ・ 住民懇談会を実施して意見収集することは賛成である。
- ・ 参加者の募集は、事務局とも連携していきたい。
- ・ 計画策定に向けて建設的な意見が得られるかが重要であり、そのために情報共有も行うことは基本であると思うが、関心を持っていただいた方に、上信電鉄の重要性や必要性といった課題を感じていただく場であるということも有益であると感じる。
- ・ 例えば、過年度のアンケート結果について意見をお聞きすることなどは、次の検討につなぎやすく、有意義ではないかと思う。

【黛代理（下仁田町企画課長補佐）】

- ・ 沿線住民からの率直な意見を聞くのは良い機会であると感じる。提案いただいたように、3回に分けて実施することも良いと思う。
- ・ 参加者の募集について、声掛けをする場合も、一般公募の場合も、住民懇談会の趣旨を理解していただく必要がある。行政への不満ばかりで、本来の趣旨に沿わないこともある。募集の際には、そのあたりも念頭に置きながら進める必要がある。

⇒【事務局】

- ・ 公募の段階で理解できる範囲には限界がある。当日はファシリテーターも入りながら、テーマに沿った形で進めていくため、状況に応じて軌道修正を図るよう努めたい。

【黛代理（下仁田町企画課長補佐）】

- ・ 参加者は、3回とも同じ人が参加することを想定しているか。

⇒【事務局】

- ・ できれば3回とも参加いただくことが望ましいが、2回目、3回目に初めて参加する人も議論についていけるよう、毎回振り返りを行う予定である。

【田中委員（甘楽町企画課長）】

- ・ 市町村への事前説明会でも話したが、住民懇談会をワークショップ形式で開催する想定ではなかった。市町村が補助を出す内容の意見が出るという結論が見えているため、協議会のこれまでの取組について説明し、住民に理解いただくことで十分であると感じる。
- ・ 協議会で2年間議論してきたにも関わらず、今更ワークショップで課題を出して、良い意見が出るのか。1年半で3回に分けて実施する必要があるのか。ワークショップ形式には反対である。

⇒【事務局】

- ・ 協議会では昨年度2月に鉄道存続に関する基本方針を出して、これから具体的に地域公共交通計画を作っていく段階である。基本方針では、主に計画の柱となる鉄道の存続について協議を重ねてきた。これからは、鉄道を存続することによる地域の価値向上について検討を進めていく。
- ・ これまでは協議会の限られたメンバーで話し合ってきたが、今後は住民と膝を突き合わせ、課題を共有しながら計画策定を進めていく必要があると考えている。

【関口副会長（群馬県知事戦略部交通イノベーション推進課長）】

- ・ 事務局からは、住民とともに沿線を盛り上げていこうということで案を提示しているとのことである。甘楽町の意見を否定はしないが、できればこの形で進めたいと考えている。

⇒【田中委員（甘楽町企画課長）】

- ・ 新法人設立の話まで進んでいる中で、いまから膝を突き合わせて住民の意見を聞くのはどうかと思う。

⇒【関口副会長（群馬県知事戦略部交通イノベーション推進課長）】

- ・ いったん承知した。

【石井委員（南牧村総務部長）】

- ・ 南牧村では、上信電鉄利用は高校生の通学者5名程度である。参加者の対象が利用者であるが、学生は高校に通うために利用しており、卒業後も利用するか分からないため、5名に対して話を聞くことは適切なのかと思う。
- ・ 学生を連れていく職員、趣旨を説明する職員も必要となる。

⇒【加藤会長（名古屋大学教授）】

- ・ 住民懇談会は何百回とやってきたが、和やかなものも、大喧嘩になるものもある。
- ・ 懸念も出てきたが、そうした懸念を出さない方法を自分なりにも考えている。
- ・ なお、事務局から「意見を吸い上げる」とあったが、市民と協議会は対等な立場であり、適切ではないため留意いただきたい。
- ・ 今回住民懇談会をやる趣旨として、意見集約ではなく作戦会議と捉えている。協議会だけで上信電鉄に対する効果的な対策案が出せるのであれば、住民懇談会を開催する必要はない。
- ・ 協議会の内容を住民に理解いただくのであれば、基本方針についてのパンフレットを配布すればいいのではないか。説明会を行っても、参加者にしか伝わらないし、伝えたふりをするのは望ましくない。
- ・ また、住民懇談会は、運賃値下げやサービス水準の向上など、聞かなくても分かっていることを聞くのではなく、今後の取組について聞く機会であれば意味がない。
- ・ 参加者の募集方法について、自分としては公募だけでいいとは考えていない。住民懇談会は鉄道利用によって地域をどうしたいかについて話し合う作戦会議である。良い案があれば参加者自らが取組主体を担うことも考えられることから、取組んでくれそうな人に参加いただくことが望ましい。
- ・ 南牧村の高校生5人に話を聞くのであれば、ヒアリングを行えばいい。5人の中で、上信電鉄を利用する上で不満を感じていて、次の代に引き継ぎたいと考える学生には、ぜひ住民懇談会に参加してもらいたい。最近の高校生は、しっかり考えている学生も多い。

- ・ なお、住民懇談会で意見の集約はできないと考えている。こちらが決めたことをお伝えして、質疑応答して伝えたふりをして意味がない。住民も対等な立場で一緒に考えるための会合である。
- ・ 他に良い案があるのであれば、住民懇談会にこだわるものではない。

【平田委員（富岡市企画課長）】

- ・ 改めて話を整理すると、協議会では基本方針までとりまとめ、上信電鉄の発展のための地域公共交通計画策定に向けて、住民懇談会を開催するとのことである。
- ・ それを踏まえて市町村が心配していることは、参加者への働きかけである。富岡市でもよくワークショップを開催しているが、人集めに苦慮しており、無作為抽出を行ったりしている。
- ・ 7月末開催となると1か月間で公募して、どのくらい集まるか。住民懇談会を有意義にするためには、多様な人に参加していただきたいことから、十分な働きかけが必要である。

⇒【加藤会長（名古屋大学教授）】

- ・ 急いで実施する必要はない。人が集まらなければ開催を遅らせればいい。公募だけでは多様な参加者にはならないため、事務局側である程度コントロールは必要かもしれない。
- ・ 地域公共交通計画はToDoリストである。いつ、誰が、何をやるか、示さなければならない。そのためには、取組主体となる人と話をする必要がある。責任のない意見を集約しても、計画にはならない。
- ・ 参加者の募集方法は色々ある。声掛けをしつつ、公募することが多い。
- ・ 不満だけを言いたい人は、おおよそ2回は来ない。回数を重ねるごとに、意図が伝わり参加者も入れ替わる。
- ・ 自分がやりたい、やってほしいことを言ってくれる人が、最終的に委員になっていくと理想である。

【佐羽委員（関東運輸局地域公共交通マイスター）】

- ・ 沿線市町村の皆さんの話を聞いていると、情熱を感じられない。
- ・ 南牧村が高校生の話をしていたが、今の高校生に話を聞くというのは、すなわち将来の高校生のために議論するということだと思う。
- ・ また、上信電鉄の前社長とは長い付き合いだが、上毛電気鉄道やわたらせ渓谷鉄道には応援団体がいるが、上新電鉄応援してくれるグループがいないと嘆いていた。沿線市町村の鉄道の愛情がないのではないかと思う。
- ・ 鉄道が地図から消えるというのは、大きな話である。今あるものをどううまく使って、地域を盛り上げるか、上信電鉄はとても大事なインフラであるということをご理解いただきたい。

【鏡山委員（ぐんま地域共創パートナーズ代表取締役社長）】

- ・ 別の観点から一点。住民懇談会の第1回は住民の課題認識とあるが、我々協議会が考えている課題感に不備がないか、すり合わせが重要である。その際には、不満の強さを確認することは意味があると思う。当日はファシリテーターがいるとのことなので、フォローしてもらいたい。確認ができると、2回目、3回目にもつながると思う。

⇒【事務局】

- ・ ファシリテーターがコントロールしつつ、不満の強さや課題感を共有できたらと考えている。

【石井委員（南牧村総務部長）】

- ・ 先ほどの発言に補足する。南牧村では、高校生5名には通学費用の全額補助を行っている。保護者負担は全くない状況であり、学生も当然と考えていると思慮される。他自治体とは状況が異なると考えている。

【関口副会長（群馬県知事戦略部交通イノベーション推進課長）】

- ・ 富岡市と甘楽町は、7月開催で問題ないか。

⇒【平田委員（富岡市企画課長）】

- ・ 富岡市は、現実的には集中して声掛けが必要であり、想定される人達のみでの参加になるだろうと考えている。

⇒【田中委員（甘楽町企画課長）】

- ・ 事前の沿線市町村説明会でも、この日程は白紙となったと認識している。

⇒【事務局】

- ・ 7月開催は難しいと意見をいただいたため、再度日程調整する。8月の日程はまだ時間的な余裕がある。なお、7～8月にこだわったのは、高校生が夏休み期間であったためである。
- ・ 募集方法は、事務局案を撤回し、公募は5～10名、声掛け10～20名としてご議論いただきたい。

【加藤会長（名古屋大学教授）】

- ・ 南牧村の高校生について、学生と保護者は立場が異なるため、それぞれに意見を聞く必要がある。保護者は費用や送迎の負担がある。例えば公共交通の時間が合わず、行きは電車で帰りはクルマというパターンが考えられる。
- ・ 先ほど佐羽委員より、情熱の話が出たが、熱くなってしまうのはマイナスだと思っている。住民懇談会では盛り上がりつつも、実際にやれるかやれないか、冷静に議論しなければならない。
- ・ 地域をよくするために、上信電鉄が役に立つということがないといけなると訴えるのであれば、昨年度の事務局案にあったシンポジウムも意義がある。自分としては、できることがあればなんでもやる。それぐらいの思いである。

⇒【関口副会長（群馬県知事戦略部交通イノベーション推進課長）】

- ・ 地域公共交通計画を策定し、上信電鉄を盛り上げていく。そのための住民懇談会だと思っているので、行政だけで地域公共交通計画を策定するのではなく、住民の声を踏まえることは大事なことでありと考えるが、国からの意見を伺いたい。

⇒【市野委員（国土交通省関東運輸局交通政策部交通企画課長）】

- ・ 仰るとおり重要と考える。
- ・ 加藤会長の言う作戦会議と、鏡山委員の言う不満の洗い出しは、コンセプトが異なるが、どう考えているか。

⇒【加藤会長（名古屋大学教授）】

- ・ だからこそ3回実施である。1回目には不満が多い。まずは意見の棚卸をして、2回目以降でToDoリストをつくり上げていく。1回だけでToDoまでは進められない。

⇒【鏡山委員（ぐんま地域共創パートナーズ代表取締役社長）】

- ・ 不満ばかりが続くと住民懇談会をやる意義が薄れるため、次のアクションにつなげるためには、意識して全体設計をしていく必要がある。

【関口副会長（群馬県知事戦略部交通イノベーション推進課長）】

- ・ これまでの議論を踏まえ、実りのある住民懇談会として、ワークショップ形式で開催したいと考えている。甘楽町はいかが。

⇒【田中委員（甘楽町企画課長）】

- ・ ワorkshop形式で開催する旨承知した。

【加藤会長（名古屋大学教授）】

- ・ 住民懇談会には、各市町村における地域公共交通活性化協議会の住民委員にも来てもらいたい。これを機会に、行政よりも住民委員さんがつながってもらいたい。
- ・ また、取組の具体性が増すことから、交通事業者やタクシー事業者にも、1～2名は参加いただきたい。

【真藤委員（高崎市地域交通課長）】

- ・ 募集方法について再提案もあったが、実際にどういう方に声掛けや推薦をしたらいいのかと考えている。声掛けの対象などは、事務局とも意見交換をしながら進めていきたい。

【関口副会長（群馬県知事戦略部交通イノベーション推進課長）】

- ・ 募集方法については、各地域の特性への考慮も必要であるため、事務局と各市町村で調整いただく。
- ・ その他、事業計画全体について特に意見がなければ、承認いただける方は挙手願いたい。

<全会一致で可決>

#### 4.4 令和7年度協議会予算について

<事務局より資料3-1,3-4に基づき説明>

《意見等》

【加藤会長（名古屋大学教授）】

- ・ 共創プロジェクトの二次募集が開始しているが、活用は検討しないのか。

⇒【事務局】

- ・ 以前、1つの協議会で補助金の二重取りはできないと言われた経緯があるが、可能性があれば活用したい。
- ・ 活用可能性は確認する。

#### 4.5 今後のスケジュールについて

<事務局より資料4に基づき説明>

《意見等》

【加藤会長（名古屋大学教授）】

- ・ 成果物は地域公共交通計画しかないように思うが、計画がなくても「3月までに合意できたものは、4月以降実際に進めていこう」というアウトプットは作れるはずである。いつまでも計画作りに進めないのは望ましくない。
- ・ 例えば、住民懇談会の結果として、何が得られたかを地域にフィードバックする機会として、開催結果を広報することも重要である。
- ・



⇒【事務局】

- ・ ご指摘のとおり、計画ありきではなく、住民懇談会で出た課題を踏まえて「このような形でまとめていきます」というアウトプットを行うこととする。

【加藤会長（名古屋大学教授）】

- ・ 国補助の対象は調査事業であり、計画策定まで行うものではないはずであるが、多くの自治体では印刷費までを見込み年度内に策定せざるを得ない実情である。
- ・ 本来ならば、年度内に議論が固まらなければ次年度以降に繰り越されるはずである。
- ・ 計画を策定することが目的ではなく、計画を実行することで良くしていくことが重要であるため、やることを議論しておいて、ToDoとしてまとめれば計画になるはずである。計画では、やっていないことだけでなく、すでにやっていることもしっかりと記載すべきである。国の支援が十分でないのであれば、できることをしっかりと実施していくことが重要である。
- ・ 住民懇談会しかやらないのではなく、この場で合意してできることは取り組んでいければと考えている。

⇒【関口副会長（群馬県知事戦略部交通イノベーション推進課長）】

- ・ 加藤会長のおっしゃるとおり、国の支援が潤沢かどうかではなく、住民懇談会をはじめとすることができることから取り組んでいき、その結果地域公共交通計画に至る。

【平田委員（富岡市企画課長）】

- ・ 今後のスケジュールの一番下にある、サポート体制の検討は今後どのように進むのか。協議会の関わり方はどうなるのか。

⇒【事務局】

- ・ サポート体制の検討は、基本方針に含まれるものであり、三鉄の事務共有化などが共通して含まれている。本来は協議会で行っていけばいいが、まずは群馬県内で検討する。
- ・ 9月に検討結果を提示し、最終的な方針を3月に示すスケジュールで考えている。その後、検討主体を協議会に戻し、沿線市町村の皆さんと議論していきたい。
- ・ サポート体制の運営は、協議会または別組織となるかは、検討結果を踏まえて相談と考えている。

## 4.6 その他

<事務局より資料5に基づき説明>

### 《意見等》

【木内委員（上信電鉄㈱代表取締役社長）】

- ・ 上信電鉄では、近々総会にて、決算について説明予定である。自治体の支援も受けながら、鉄道事業としては差し引きゼロ、会社全体では3,900万円程度の黒字となった。今後も鉄道事業で差し引きゼロとなることが健全な運行には不可欠であり、引き続き支援をお願いしたい。

【事務局】

- ・ 住民懇談会の声掛け対象等については、来週早々には調整し、各市町村とやり取りを進めたいため、協力をお願いしたい。

以上